

ひとりひとりの自己実現をめざして

——学級経営実践記録から——

足利市立三重小学校教諭 高田 健 司

1. 序に代えて ——先生への手紙——

小学校生活の中で一番楽しかったのは、先生に受持っていただいたこの2年間でした。それまでの私は消極的で友達と言えば近所のKさんひとりでした。勉強はまあまあできた方だと思っています。

しかし、クラスの中でとりのこされていたのはさびしいものでした。ですから組替えの時は、またひとりぼっちになるのではないかと、また友達が少ししかできないのではないかと不安でした。組替えをした最初のうちはひっこみじあんのためやっぱり友達はできませんでした。そのうちにSさんやTさんという友達ができました。その時は本当にこのクラスには入れてよかったと神様に手をついてお礼を言ったほどでした。

今では6年3組という世界一の明るいクラスのひとりとなれたことを、とてもうれしく思っています。こんなクラスになれたのも先生のおかげで、高田先生という先生にめぐり合えたからこそできたのだと思います。このクラスの人は委員長のA君をはじめみんな先生の手伝いを喜んでよくやり、特に「百姓」などというとき、我も我もと先を争ってやるほどです。先生のおかげで私も自分では、ずいぶん積極的になり、明るい性格になったなあと思っています。

今年の元日に先生からの年賀状を読みながら、もうすぐ先生ともお別れしなければならないと自分に言い聞かせると、涙があとからあとから浮んできて、うるんだ目で意味がわからないのにもかかわらず、それを読み返していました。たとえみんなと別れ別れになってもこの2年間の思い出は決して忘れることはありません、先生も私たちのことを忘れないことを願っています。

高田先生へ

T・Y

この手紙を読んでいて、私は胸の中を熱いものが流れていくのを感じた。どんな過程を経たにもせよ、ここにひとりの人間が力強い躍動をしながら、健やかに心の扉を開き、内面から、変化しつつ、望ましい方向に向かって成長していく姿。それはこの子どもの自己変容の一端をかいま見たような気がして、教師としての誇りと喜びを感じたのである。

そして、改めてこの子の成長にいったい私はどれだけの援助をしてきたであろうかと自分に問いかけてみた。——残念ながら明解な即答は浮んでこなかった。そこでこの機会に過去2年間の自分の学級経営をふりかえり、多少なりとも、子どもたちの自己成長の援助に役立ったと考えられるものをさぐるため、主な実践例を紹介し諸兄とともに考えてみよう、と、自画自讃のうぬづれを承知で起稿してみることにした。

2. 学級経営方針

方針 自主自律にして、集中力、実践力に富み、結果よりも過程を大切に、今やっている一つのことに全力を集中して取組める子どもに育てたい。

<努力点>

- 明朗で建設的な子どもに育てる
- 積極的、創造的な子どもに育てる
- 相手の立場や気持ちを理解し、心情豊かな子どもを育てる
- 自主、自律、自学自習の態度を育てる
- 忍耐力、持久力、体力の強化をはかる
- 教師、児童、父母相互の連帯感を深める

<具体策>

- 学級会、学級指導の充実をはかる
- 給食時、その他の余暇指導に努める
- 各種当番活動、係活動を育てる
- 相互批判、事実の記録
- 学習記録、進度表の作成
- 体育、作業、清掃、園芸に努める
- 学級懇談、家庭訪問、個人面接に努める

<学級目標>

1. 何事も今やっている一つのことに全力をつくす……………(集中力、全力主義)
2. 気づいたら進んで行なう……………(実践力のある子ども)
3. 協力してみんなのためになることをする……………(協力、奉仕)

形式的ではあるが、これらの方針、努力点はここ数年来一貫して推進してきた学級経営の姿勢である。なお次にその実際について主な事項をとりあげて考察をすすめた。

3. 仲間づくり

組み替えのあとのクラスで、所期の目的達成にあたってまず手がけられるのは仲間づくりであり、学級の組織づくりであることは誰も経験していることであり、その意義、必要性については論ずるまでもないであろう。その第一はグループ編成であり、その方法も数々あるが次に私がとった二つの方法について紹介してみたい。その一つはドラフト会議による方法であり、もう一つはトランプによる無作為の編成である。

1) ドラフト会議によるグループ編成

この方法は、比較的長期にわたるグループを編成する場合で、組替当初の編成にはむしろトランプによる方法が効果的である。ドラフトによる場合、代表を互選して任せる場合と、教師が代表をあらかじめ指名して任せる場合の二通りの方法をとった。この方法によってつくったグループは

- 生活グループ
- 日直
- 学習当番
- 各担当番
- 学級の係り
- 掃除グループ
- 遠足のグループ
- グループリーグ戦

などであり、いずれも学期交替とし、同時に二つの代表となることを禁止し、だれもが選択権と、被選択権を得られるように配慮した。そして、能力や人格による差別、偏見がはいらないように心がけ、短期に編成替えすることで、その機会をなるべく多く与え交友関係の拡大と交流を多くするように努めた。この方法ではいつも被選択権しか得られない児童にも選択権が得られるよう、あらかじめ教師方で指名し、残りを互選にする等、どの子にもスポットが当たるように配慮した。

2) トランプによるグループ編成

この方法は独自のアイデアと思われるが、トランプの利用は他にもいろいろあることを発見し、我ながら満足している。

先ずトランプの両端に児童名のゴム印を押しておく。順序はどうでもよいが、色分けして、番号を合わせておくといろいろと便利である。このカードを自由に切って無作為に配分する方法、あるいはあらかじめリーダーを抽出しておいて残りを分ける方法、その他配ったカードの一番上の人、2番目の人をリーダーとするとか事前の約束によって取決めておくことによって全くの偶然から新しい能力を開発できる場合もある。

この方法による編成はあくまで交友関係の交流を拡大し、いろいろな適応能力を開発するのがねらいであり、長期にわたるグループ活動や、能力差が大きく左右するグループ対抗などの編成には不適當である。しかしこの方法だと、だれも平等に扱われ差別がなく、だれでもできる方法なので活動の成果よりも、かくれた能力を引き出したり、人格を育てたりする場合にはプラスの面が非常に多く、ほとんどの児童がこの方法を喜んでいたのである。初めに掲げたT子の場合などもそんな方法の中で除々にスポットを浴び人格の変容を可能にしたのではないと思われる。

※トランプのその他の利用法

- 時間中の指名
- 作業の分担
- 提出物の点検
- 発表の順序
- 物を分ける場合
- 簡単な代表を選ぶ場合

その他まだたくさんの利用法が考えられる。しかしこればかりに頼ることは偶然性に頼り、投機的態度に偏向する危険もあり、教育的なマイナスも考えられるのでその点を考慮して利用するようになりたい。それにしてもトランプを利用することで全体に緊張感がみなぎり、チャンスが平等であることから差別感をなくし、学習意欲の面でも大いに向上が見られたことは確かなようである。

3) 学級行事

仲間づくりを育てることに学級行事が重要な役割を果たすことも見のがせない。その多くは学級会活動の延長として考えられているが、学級指導の中に位置づけを考えてみてもよいように思える。こ

ここでは学級会活動の中の集会活動の発展として援助してきた。時間内に行われる場合は学級会の時間として計上できるが、どうしても児童の要求に応えるためには時間外に持ち越されるものも出てくる。その場合の事故処理を考えると管理者の立場もむずかしいところであろうがこどもたちの喜ぶ姿をみれば、やはりやってよかったの一語につきる。

このクラスの時間外におけるおもな学級行事としては

- 魚つり大会（日）
- もみじの種拾い（土）
- レクリエーション大会（土）
- 猿狩り（夏休み）
- 早朝サイクリング（日）
- オリエンテーリング（日）

などであるが、いずれも小学校の思い出として実に印象深く、しかもそれが仲間づくりに、師弟相互の人間関係を育てる上に大きなプラスになっていることは卒業文集に明らかである。願わくは、これらの行事が何の気兼ねも心配もなく堂々とできるような配慮を当局にお願いしたい。

4) 三つの目

これは、心の「四つの窓」にヒントを得て、毎学期末道徳の時間を利用して続けてきたものであるが、当初お互いの中傷になってしまっていて、建設的、向上への足がかりにはならないのではないかと懸念したが、案に相異してお互いの向上に大変効果があったので、その要領と実例を紹介して参考に供したい。要領は、

- 先ず自己反省を自分で書く
- それを順次全員に回覧し、級友が意見を書き入れ記名する
- 自分のところへ戻ってきたのを見て納得のいかない意見があれば書いた人に質問し、誤解があれば訂正してもらう
- それを清書して担任に提出する。担任も同意見の項目には捺印する
- 通信票と一しょに保護者に渡す
- 保護者は認印して担任に返す。次学期それを繰り返し一年の成長を見る

資料①はそうしてつくられた記録である。これを見てもわかるように、教師の書く、通信欄や、手紙よりは、はるかに辛らつで、要を得た記録であり、しかもいやみがなく、選択権が自分にあるという点で自己成長を援助するためには、教師の注意や助言よりは数倍も効果であったように思う。

教育が自己実現を援助する過程であるならば、それは内面から革新されていかなければならない。その点、この三つの目は、児童の人格の具象的側面に直接せまり、内面的に働きかけるものであり、予想以上に効果をあげたように思う。

5) 学級表彰

学級会の議題としてとりあげられ、学校で行っている「よい子の表彰」に制限があるので、選に落ちた子をすくい上げるという意味も含めて表彰規定を設けたのがこの表彰である。

賞状は都合により割愛するが、中間に空欄を設け推せん理由および事実を書き入れるようにしたのが特徴である。

〈表彰のきまり〉

学級の約束をよく守り、みんなのためにつくし、その態度がみんなの模範になるような人で、学級の三分の二以上の人が賛成した場合、学期の終わりに表彰する。

これまでに、この規定によって表彰を受けた者の推せん理由の主なものはこの通りである。

- 指導力がある
- 自主的で実行力がある
- 姿勢がよい
- ユーモアがある
- 勉強を熱心にした
- けじめがよくはきはきしている
- 責任感がある
- 親切で友だち思い
- グループをよくまとめてきた
- 積極的で判断がよい
- 態度がまじめである
- 仕事をよくやる
- 親切で素直
- 話し相手になってくれる
- かげで人の力になっている
- よく気づき進んでやる
- 言葉づかいがよい
- 活発で責任感がありやさしい
- 学級の約束をよく守った
- 一つのことを全力でやる
- 思いやりがある

推せんは一人で何人でもできるが、必ず推せん理由をつけることにしている。推せんの過程で、友だちの長所を見つけ、人をよく理解しようと努めるようになり、好意をもつようになるものと考えられるからである。それらの推せん書を一覧表にし、全体にはかって表彰者を決定するわけであるが、推せん書を読みあげ、信を問う中で、適当なアドバイスをすることによって、ひとひとり認め合い同時にそれが自己反省ともなり、自己形成、自己実現、自己変容への手がかりともなってきたように考察される。

6) 事実の記録

その名の通り事実を記録するために用意した一円ノートのノートであるが、当初、告げ口を処理するための便法としか考えず、訴えがある度に「先生は忘れんぼだから、これに書いておくれ」と言って、日付けだけを書いてノートを渡して書かせたのが始まりである。

訴えた本人は、ノートに書いたことによって、自分の立場や苦情を先生に十分理解してもらえたと言う喜びで満足し、たとえ教師が自ら解してやらなくても、何日かして取消しにくるものさえあった。

しかし問題によっては本人を説諭したり、あるいはその記録を保護者に渡し認印やお詫びを書いてもらったものもある。ともあれ、このノートをつくってから問題行動は激減し、争いも少なくなったことは事実である。それも一冊のうち僅かに5頁ほどしか使わなかった。次に2・3の事例を引用して参考にした。

例1 手袋をもって、これいいだろうと言って人の頭をなぐり、帽子をとってしまった。それをどこかにかくしてしまい、クリスマスコンサート券もとってしまった。やめてと言って取り返そうとしたが、まるめてバケツの中に捨ててしまった (Y.M)

上記の券がないと300円支払うことになるのだそうです。 高田

(翌日、母親から300円と詫び状が届けられた)

例2 算数の時間N君はSさんの頭をはたいて、T君のせいにした。

何も言わずにN君にこのノートを見せたら素直に謝罪した。

以上、集団をとおして、ひとりひとりを育てるために配慮した点をいくつかあげてみたが、問題は方法よりもむしろ、それに取組む教師の姿勢であり、態度ではないのだろうか。その後姿が無言の教えとして子どもたちを引きつけていくように思えてならない。そのことは最後にアンケートをまとめてみてははっきりと知らされたような気がする。

“子どもは言うとおりにほしない。するとおりにする”

“子どもの目はレンズであり、心は鏡である”

4. 学習の意欲づけ

何でも自由に言える楽しい雰囲気づくり、仲間づくりもさることながら、ときにはきびしさも必要であり、一日一日、一時間一時間の学習は楽しいものばかりではない。毎時間魅力あふれる楽しい授業ばかりが展開できるとは限らない。

そこで、どうしたら子どもたちが自主的に意欲的に学習するようになるだろうか。その方法や動機づけについてはたくさんの研究がなされているが、ここでは最も簡便でこれなら長続きするという自信のあることだけを選んで実施してきた。

1) 累加記録

その一つは各種記録を単純な形で累加し一目瞭然に各人の足あとがわかるように記録することにした。即ち学習時間、学習内容、発言記録がそれである。いずれも目新しいものではないが、これらはいずれも継続して累加することによって真の効果が表われるものであることをやってみて痛感した。

資料③は学習時間の記録であるが、ここでは主に家庭学習の時間を累加し、誰かが100時間に到達した時、全体を一斉に回収し1時間を1点とし、100点満点で記録することにした。

翌日から再び全員0からスタートすることにした点が特に改善した点と言えば言よう。

次に学習内容は従来進度表として一部実施してきたものを全教科一枚の用紙に収め、学習の要点や課題をチェックすると同時にこれを学習態度の尺度とすることにし、通信票の行動性格の評定欄の下段に学習態度という項目を設け100点法で記入することにした。即ち一学期間に5点法でチェックした要点、課題の中から20項目を描出し、100点満点とした。

これによって子どもたちは自分の学習態度を容易にとらえることができるようになり、反省にも役立つと見え、目標がたてやすく、むらのない学習活動が展開されるようになり、能率も一段と向上した。

小計 8時間10分

累計 33時間15分

月日	内 容	時 間				
		10	20	30	40	50分
二 十 二 日	復 習 (先問)					
	算 数 P 8 2 ~ 8 5					
	漢 字 練 習					
	学 習 ノ ー ト (国)					
	漢 字 練 習					
	理 科 ・ 森 林 の ま と め					
	学 習 ノ ー ト					
	テ ス ト 予 習					
	問 題 集					
	パ ラ シ リ ー ス 力 を つ け よ う					
" 力 を の ぼ そ う						
基 本 の 問 題						
参 考 書						
ま と め の 練 習						

小計 9時間50分

累計 43時間5分

月日	内 容	時 間				
		10	20	30	40	50分
二 十 五 日	学 習 ノ ー ト					
	問 題 集					
	パ ラ シ リ ー ス 参 考 書					
	基 本 の 問 題					
	音 楽 ワ ー ク					
	3人むすめの心の動き(感想)					
	問 題 集					
	パ ラ シ リ ー ス 力 を つ け よ う					
	" 力 を の ぼ そ う					
	読 書					
力 を の ぼ す 問 題						
実 力 テ ス ト						
学 習 ノ ー ト						
参 考 書 調 べ						

この記録を始めてから帰宅早々机に向かっている様子です。
 先ず落着いて机に向かう習慣がつけば、序々に学習内容も研
 究、向上していくものと期待してよろこんでおります。

次に発言記録であるが、これは牛乳の空ぶたを利用し、裏面に担任の検印を押し、これを一回の発言につき一枚交付し、10枚たまと別の認印のカードと交換することにし学期に100回の発表を目標と定めた。これも意外と効果を奏し発言が活発になったことはもちろんであるが、同時にその副次的効果として牛乳のふたをきずつけないようにとる専門家が現われ、専属でふたの回収に当たった。彼はこの仕事を通してクラス内における自分の地位を安定させ、問題児としての影をひそめ、クラスにとけこんで行った。期せずして二重の効果を収めることができた。

2) 学習予定の明示

学習に限らず、ある行動に対する意欲づけは事前の心がまえを育てることが先決であり重要なことであるように思われる。さらにできれば計画の段階で参加させることによって意欲は益々高まるように考えられる。せめて計画だけは明示し、予告しておくことが最低限必要なのではないだろうか。

私がここに明示したのは週指導計画案そのままであるが、それでさえかなりの児童が関心をもち意欲的に取組むようになってきたのである。特に配慮した点と言えば週案の内容を児童にもわかり易く書き、黙ってそれを前面黒板に貼っておいただけのことである。誠にお粗末というほかはないが、それでも児童はそれを頼りに日直が予告したり、ある者は先の先まで予習してくることさえあったりして、学習能率の向上に大いに役立った。

3) トランプによる指名

このことについては先にも少しふれたが、意外に児童の興味、開心が強く効果的であったので一項を設けて考察してみることにしたい。

この方法が何故にそんなに児童の人気を集め効果的であったのか、やってみて驚いたことであるがそれは多分、期せずして指名されることの不安と緊張感、そしてチャンスが平等に与えられることの満足感、期待感、それらが入りまじって一種の興奮状態をかもし出すかのように感じられる。事実優秀児の中には一部不満の声も聞かれたことからそのことはうなづかれる。利用法としては

- ある時はトランプを日直の上に 机の上に置き日直がめくる
- ある時は委員長にあづけ
- 通常は教卓の上に置き教師がめくって指名する
- ある時は発表者が順に切ったりめくったりする

たった5～6人の指名でも緊張感と期待感は全員に平等にかかるのもこの方法ならではの妙味であり、子どもたちは目を輝かせて取組む姿は真剣そのものであった。非情と言えば非情であるが、ユーモアときびしさが相まって興味深い学習が展開された。

- 4) 学習当番
 - 5) テスト予習
 - 6) 時間の確保
- } 略

まだまだ学習の意欲づけに関してはたくさん方法があるであろう。しかし要はどんなすばらしい方法も一回の研究授業のための演出であっては効果がない。どんな簡単な方法、アイデアでもそれが児童に定着し継続されることによって必ず効果が表われてくるものと信じる。それまで一学期、あるいは半年児童とともに取組む態度が肝要なのではないだろうか。ともあれ学習面についても過去20年間の中では最も著しい進歩向上が見られたことを指摘してこの項の結びとしたい。

5. 師弟同行ということについて

以上ひとりひとりを育てるためのいくつかの手だてについて役立ったと思われる方法を挙げて考察してみたが、それらの施策にもまして、師弟同行ということがいかに児童の心情を育てる上に、またひとりひとりの結びつきを深める上に測り知れないものがあるか多くの手紙から痛感させられた。

次に児童の手紙を集録し考察してみたい。この手紙は卒業を目前にして「先生への手紙」という題で書かれたものであるが、これを見て驚いたのは、そのほとんどが昼休み、掃除の時間、放課後、年間を通じて取組んできた園芸の仕事を通じて働くことの喜びと、これを教えてくれたことへの感謝でつづられていた。そしてそれらの同行がすべてのささえになっていたように思える。

〈先生への手紙から〉

- 先生、ぼくの大好きなのは体育ではありません、百姓です。百姓にもいろいろあるが、一番好きなのは耕しで、次に堆肥（豚糞）をとりに行くことです。……………そして農業高校に行き、大人になったら長野県に広い土地を買っていろいろな農作物を作りたいと思っています。……………
- ……………あるおかあさんは「うちの子は無口でこれまで先生としゃべったこともなかったのに、土いじりをするようになって急にしゃべるようになってよかった」と記していました。みんなも、きっと人間的な心を何か養ったことでしょう。……………私も先生とともに園芸をとおしてどれだけ成長したか知れません。
- ……………いつの間にか百姓という先生のあだ名ができました。……………百姓をやっているといやなこともわすれていい気持ちになるのです。……………百姓を教えてくれてどうもありがとうございます。
- ……………豚の糞とりも最初はくさくてたまらなかったが、今ではそれが楽しくてしかたがありません。……………とてもはりきって学校へたくさんもってきて自慢したくなるのです。……………
- ……………一番苦しかったのは風速計の東にある「よし」を切りたおし、開墾したことです。毎日毎日スコップを持ち出し、直径5～6cmもある根を切り、毎日やってもわずかしか耕せない。ぼくはいっしょうけんめいに力を入れて耕しました。やっとの思いで耕して作った畑も今ではりっぱな畑になりました。……………
- ……………百姓の未熟さから「四ッご」を曲げてしまいました。それを先生がいっしょうけんめいなおしているのを見てなんだか申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。そしてこれからはどんな道具も大切に使わなくてはと思いました。……………
- 最初先生が園芸を始めた時、ずいぶん変わった先生だなあと思いました。……………この先生、生徒にまで百姓をやらせるのかな、いやだなあと思っていたのに、今じゃ生徒の方から「先生今日は天気がいいから百姓やりましょう」というではないか……………

○……農業をとおして、ぼくは先生を信じてきました。……一番心に残っているのは先生の農業用スパイクです。……

○……この前の日曜日、種屋に行っているいろいろな種を買ってきました。……ぼくたちの班で農業少年団というのをつくったのです。もちろんぼくが団長です。……

○中学へ行っても必ず手伝いにきますから百姓だけは続けていてください。……

まだまだ、農耕作業に関する思い出や感想を書いたものはたくさんありますが、後はアンケートにゆずりたいと思います。それにしても師弟同行して汗水たらして取組み作業を通して結ばれた絆というものがこんなにも深く強いものになろうとは考えても見なかっただけに感慨深く、同時に現代っ子は口先ばかりで労をいとうというような風評は全く当たらないという感を強くした。それどころか何かをしたくてしかたがないが何をどうやればよいかわからないために戸惑い、やり場のない気持ちに困っているようにさえ思えてきた。

<アンケートから>

学年末、児童の手紙を読んで感銘し、それを確かめたくて急いでまとめたアンケートで、アンケートとしては項目の設定もお粗末で要を得な点もあるが、内容は手紙の内容を整理確認するための統計的資料として考え羅列してみた。

[アンケート]

1974 3.18 6年3組

結果は、多少お世辞があるにしてもほとんどの項目が100%

……思う

……良かった

……はい

というような肯定的な応答で、

①、④、⑤の項目について、
僅かに2～3名の否定的な応答が見られただけであった。

なお文章記入の項目については、次のような応答があった。

③ 楽しかったことは

○百姓

○いろいろな学級行事

○先生とめぐり会えたこと

○みんなと二年間仲よく、
くらししたこと

○先生や友達といろいろな
話をしたこと

- | | | |
|---|----------------------|------|
| 1. 何事も力いっぱいやりましたか…… | やった | やらない |
| 2. このクラスの友達とめぐり逢えて良かったと思います。…… | 思う | 思わない |
| 3. 楽しかったことはどんなことですか。… | (なにもかも) | |
| 4. 友達を大切にしましたか。…… | した | しない |
| 5. 友達から大事にされましたか。…… | された | されない |
| 6. 良い先生だと思いましたか。…… | 思った | 思わない |
| 7. どんな先生だと思いましたか。…… | (やさしく、おもしろい) | |
| 8. 先生を好きでしたか。…… | はい | いいえ |
| 9. どうしてですか。…… | (おもしろい) | |
| 10. 勉強の教え方はどうでしたか。…… | (よかった) | |
| 11. 先生の短所はなんですか。…… | (わすれっぽい) | |
| 12. 先生の長所はなんですか。…… | (何ごと全力) | |
| 13. 先生にめぐり逢えて良かったと思いますか。…… | 思う | 思わない |
| 14. トランプの利用はどうでしたか。 | 良かった | 悪かった |
| 15. ドラフト会議は良かったですか。 | 良かった | 悪かった |
| 16. 作業は楽しかったですか。 | 良かった | 悪かった |
| 17. 先生といっしょになってから勉強ができるようになったと思いますか。…… | 思う | 思わない |
| 18. 先生といっしょになって、あなたの良くなったことはどんなことですか。…… | (やさしくなったこと、気づいたこと) | |

このアンケートは、先生が今後の参考資料を得るためにまとめるものですから正直に自分の気持ちをありのままに答えてください。名前は書かなくてもけっこうですが、全員出してください。(担任 高田)

- ・作物を作ったこと
- ・旅行, 林間学校, 体育
- ⑦ どんな先生だと思いましたか
- ・よう気な先生
- ・やさしい, おっかない
- ・何事も努力し, 全力でやる
- ・おっちょこちょい
- ・親しみやすい
- ・力強い, たのもしい
- ・りっぱ, 人間らしい
- ・百姓が好きな先生
- ・おもしろい, ゆかい
- ・一つ目標に向かってとことんまでやる先生
- ・ほんとうに生徒のことを考えてくれる
- ・友だちのよう

⑨ どうして先生が好きでしたか

- ・ようき
- ・おもしろい
- ・話がわかる
- ・ひょうきん
- ・信頼できる
- ・何事も「ばきっ」としている
- ・私達の考えを理解してくれる
- ・友だちのように感じた
- ・よく相談にのってくれる
- ・どんな面でも公平
- ・うるさくない
- ・なんでも教えてくれる
- ・やさしい, たのしい
- ・みんなを大切にしてくれた
- ・きびしい

⑩ 勉強の教え方は

- ・よかった, うまい
- ・頭によくはいる
- ・おもしろい
- ・こまかいところまで教えてくれない
- ・真けん
- ・楽しみながらできる

⑫ 先生の長所は

- ・真けんを考える
- ・全力を出しきる
- ・勉強を楽しくやる
- ・生徒を大事にする
- ・私事より公のことを考える

⑪ 先生の短所は

- ・話がくどい
- ・物を忘れる
- ・声が小さい
- ・おっちょこちょい
- ・酒をのむ

⑬ 自分のよくなったこと

- ・素直になった
- ・発表が多くなった
- ・集中力がついた
- ・やさしくなった
- ・気づいたことを進んでやるようになった
- ・明るくなった
- ・他のことをよく考える
- ・字が上手になった
- ・何事も努力し全力でやるようになった
- ・だめだと思っても最後までやりぬく
- ・行動がよくなった
- ・責任感があるようになった
- ・根気よくやるようになった
- ・めんどろみがよくなった
- ・勉強ができるようになった
- ・だれとでも親しむようになった
- ・自分の短所をよく見つめるようになった
- ・ひきしまった
- ・一つになれる
- ・百姓がうまくなった
- ・お人よしになった
- ・机に向かうことが多くなった

以上まとめてみて、自画自讃のうぬぼれが強いように思えて、てれくさい気もするが、これを裏返して考えてみると児童から見た望ましい教師像が浮き彫りされてくるような気がする。

ともあれ、現実にとどの子どものびのびと、くったくがなく、自分の力を最大限に発揮して活動してきたと思える姿を見守ってきて予め予測できた結果ではある。いろいろ至らない点もあるが、教員生活20年にして自己満足のできた学級経営ではなかったかと自負している。

それにしても、ここにこのような実践が開花した背景には校長先生はじめ先輩、同僚の温い支援と父母の協力の賜物であることはもちろんであるが、さらに私の認識の及ばない何か大きな力が、私を、そして子どもたちを支え、この出会い関係を価値あらしめているように思えてならない。

その力が何であるかは知るよしもないが、何かがある、そしてその何かが我々に働きかけ、可能性を開拓させているのではないだろうか。いずれにしてもそれは単なるテクニック以前の力であることは確である。

評

この実践記録の基底をなしている考え方は、著者も最後に述べているように“我々の認識の及ばない何か大きな力の働きかけ”に教育の理念をおいていることである。それは、察するに人間への無条件の信頼であり、教師と生徒という上下関係ではないお互い平等の人間としての出会いの素晴らしさの強調であろう。そして、著者が具体的に提示している学級経営・教科指導上のいろいろなテクニックの背景にある基本的発想は一つにここに起因するのである。この実践記録を通して、著者は我に教師に教育の原点を指し示し、“教育とは何か”という問題を正面から提起しているのである。さらに、この実践記録の特色を加えるならば、教育を効果あらしめるために必須な条件は、方法・技術ではなく、教師の教育に対する明確な理念と、熱情あふるる行動であることを提示してくれたことである